

研究名 : 急性肺障害の尿中マーカーに関する研究

研究期間 : 令和 2 年 5 月 26 日 ~ 令和 4 年 12 月 31 日

研究の目的及び意義:

急性肺障害は各種感染症などにより発症する予後不良の病態である。肺胞そのものの障害に加え、血管系の障害により発症することも知られている。急性肺障害の診断は臨床像、時間経過と画像診断による。現在のところ炎症マーカーが参考程度に用いられるほかには肺生検や気管支肺泡洗浄液の分析など侵襲が高い検査を行うにとどまっている。非侵襲的かつ繰り返し、簡便に行えるバイオマーカーの開発は喫緊の課題である。

本研究では共同研究者の村田らがマウスモデルで確立している尿中脂質マーカーの有用性をヒトにおいて検証するものである。

研究方法の概要:

成田病院検査科に提出された尿の残検体、およびカルテ情報を用いる。尿の残検体を東京大学農学生命科学研究科で解析する。質量分析計を用いて脂質マーカーを網羅的に解析する。

カルテ情報から急性肺障害診断と予後をもとに有用と思われるバイオマーカーを抽出する。

※臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用については、日本臨床検査医学会の見解として、『同意を得ることが困難なときは、試料が連結不可能匿名化されている場合、あるいは当該研究が公衆衛生の向上のために特に必要であって、当該研究に関する試料等の利用目的を含む情報の公開、被検者による拒否の機会の確保という条件を満たす場合に倫理委員会の承認と施設長の許可を得て研究をすることができる』としている。

国際医療福祉大学グループ病院臨床検査科では、日常診療の質向上を目的として、臨床検査法の開発・改良や異常値が発生する機序の解明など、さまざまな研究を行っております。この研究活動の基礎となるのが、臨床検査を終了した残余検体・検査記録の再利用です。残余検体・検査記録の再利用に当たっては「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について—日本臨床検査医学会の見解—」を遵守し、国際医療福祉大学倫理委員会承認のもとに行っております。

これまで、残余検体・検査記録を用いた研究から多くの知見が得られ、これにより、臨床検査法は大きく進歩し、新たな検査法の意義が確立され、臨床検査医学の発展、診療の質の向上に繋がってきました。当部では、承認された研究計画に基づき、臨床検査を終了した残余検体・検査記録の一部を再利用することにより、臨床検査法の改善・新たな確立を行い、医学の発展に寄与したいと考えています。

本研究は、臨床検査後の廃棄予定の残余検体および検査記録を使用するため、患者さんの生命・健康に影響を及ぼすことはありません。氏名・生年月日・住所・電話番号・ID 番号などの個人情報はずべて匿名化されてから解析されますので、個人情報が漏れることはありません。研究成果は、医学の発展のために学会発表や学術論文発表などをさせていただくことはありますが、その際も個人の特定が可能な情報はすべて削除いたします。ま

た、研究対象に該当するか否かにより、実際の診療内容に影響することはありませんし、研究にご協力いただけない場合でも診療上の不利益を受けることはありません。

個々の詳しい研究内容につきましては、別途各病院の案内をご覧ください。なお、臨床検査を終了した残余検体・検査記録の臨床研究への利用にご承諾いただけない患者さんは、お手数ですが、検査時に担当者までお申し出くださるか、個々の研究紹介に記載されている連絡先にご連絡ください。

国際医療福祉大学医学部臨床検査医学

主任教授 下澤 達雄